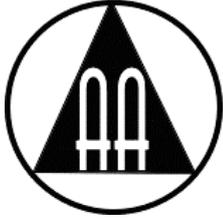


2009年4月25日

Alcoholics Anonymous



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No.135

4月1日をもってJSO 所長が代わりました。遡って2月には日本全国評議会が開かれました。

本来の目的を見失わないように

みなさんこんにちは。4月からJSOの所長に就任しました西村です。

昔よく聞かれた「ロマンを求める」「男のロマン」という言葉を最近では聞かなくなりました。先日「NPOの会計基準を作ろう！」という講習会の基調講演の中で、「日々の業務が忙しくて（人手が足りない、時間がない等…）事務仕事で一年間終わってしまうと、NPO本来の意味を忘れてしまい、目的を果たすことなく、一年が終わってしまう団体が多いのではないのでしょうか？一般企業とは違って日々の業務にかまけて本来のロマンを忘れないようにしなければなりません。」という内容でした。JSOもまさしくそれが当てはまり、日々の業務に追われて本来の目的（AAの12番目のステップ、「まだ苦しんでいるアルコールクにメッセージを運ぶお手伝い」）を忘れてしまいそうになります。

私はというと、学生時代には哲学に没頭したり、心理学に興味を持ったり音楽家になりたかったりと、やはりロマンのような形のないものに自分の存在を委ねていたと思います。しかし社会生活は、それだけでは成立しません。毎日の業務、会社の人達との程よい距離を保った関係。長年その世界にいると、言葉遣いひとつひとつにも気を配る必要が出てきました。

飲んでいた頃は「夢」とか「希望」とか「ロマン」という実体のないものをずっと追いかけて生きてきたような気がします。20～30代は舞台の仕事に携わっていたのですが、現実には業務も忙しく、まったく自分の思うような「夢」には出会えませんでした。自分の思うように物事も進みませんでした。ただ、ひと公演、終わった後の達成感や感激は毎回感じることはできました。その背筋に走る感情こそが私の夢だったかも知れません。

根っからの不器用で、不注意な私が、そんな緊張を持続できるはずはありませんでした。そんな気持ちを和らげてくれるのは唯一、学生の頃から欠かさなかったアルコールだったのです。

以前の私は人の不幸が嬉しかったり、困った人を目の当たりにすることで「ああ、ここにも不幸な人がい

たんだ。助かった。」と安心(?)したりしていました。そういう生き方しか知らなかった私が、人を手助けするAAオフィスの仕事に就くなんて当時は思ってもみませんでした。今では周りの人たちが喜んでいる姿を見ることが私の幸せにも思えます。テーマパークなどで田舎からでてきたお年寄りが、隣で花火がきれいで感動しているのを見て、「ああ、このおじいさん、幸せそうで良かった！」と自分のことのように感じるすることができます。

現在日本には推定で5,000人ほどのAAメンバーが、世界中には約200万人のAAメンバーがいるとされています。前号のニューズレターで森田氏が書かれていたようにステップのやり方（踏み方）もAAが日本に来た1975年とはかなり違って来ていると思います。JSOにもステップの方法がグループによって違うのはどういうことか？というメンバーからの素朴な疑問が寄せられます。200万人いれば200万人のやり方があり、グループやAAメンバー同士がそのことで非難し合ったり、陰口を言い合ったりすることがないように祈っています。AAはひとつだと思います。未だAAにたどり着けない飲酒で苦しんでいる人、あるいはミーティングに続けて通ってみようと思つた人から見れば、内部でお互いのやり方を認めようと思わない論争が行われているAAでは、とても魅力のないもの、安住の地とはならないはずですが、どなたかが言っていました、ステップとはみんな仲良くすることだよ…と。

冒頭に書いたようにミーティングでは「経験と力と希望を分かち合う」ことこそが本来の目的で、憂さを晴らしに来たり、他人の悪口を言いに来たりするところではありません。

サービス活動においても、もっと良くしようとがんばっているのに、時々真実を見失ってしまいがちです。私も以前サービス活動をしていた時はそうでした。とても人間らしいと思うのですが、アルコールクは時に「反抗的になる」という症状が現れやすく、周りに迷惑をかけ、突っ走ってしまいがちだそうです。

JSOに来て早、1年になりました。何も分からないままのあつという間の1年でしたが、私の欠点や仕事上の間違いをその都度多くのAAメンバーが正しい方向に導いて下さったり、助けてもらったりしました。私のAAに対するテーマはずっと「希望の創造」です。

私は自分の「いたらなさ」のおかげでこの1年の間でAAの仲間から多くの「希望」をもらえました。私の欠点に感謝です。1人でも多くの人達に「自分自身の希望」を作り出してもらいたいと思います。そのお手伝いのできればと思ひ、それが私らしさだとも思ひます。もしかしたら最初はそれしかできないかも知れませんが、私のできる最大の努力をし、メンバーの方々が自分自身のAAの希望のプログラムを伝えるお手伝いのできたらと思ひます。

最近の私はまだまだ覚えること、勉強しなければならぬことが多く、ままならない自分にイライラし、そのことに腹を立て、本来の目的を忘れかけてきたのかも知れませんが、この一文を書く機会をいただいて、あらためて本来の目的を見失わないようにと感じました。

「そこには多くの笑顔と希望があります。そこには不幸な顔をした人は一人もいなくなりました。」AAがそう言われるような集まりになるお手伝いを、非力ですが陰ながらできたらと思ひます。

JSO 所長 西村

JSOと私

1989年にどうにもならなくなってK病院に入院した3ヶ月の間に、飲まないで生きることのほのかな希望と願望をもらいました。翌1990年に病棟の公衆電話から、住まいの近くにミーティング会場があるかどうか教えてもらうためにJSOに電話を入れたのです。これが私のJSOとのファーストコンタクトでした。当時のスタッフが丁寧に家の近くのミーティング会場を教えてくださいましたことを覚えています。2月末に退院した私は1ヶ月ほど逡巡した後やっとそのミーティング会場に出かけることができました。自転車で15分足らずの距離でしたが、それ以来AAとともに歩くことを続けて現在に至っています。

AAのサービスに気がついたのはミーティングに参加するようになってしばらく経った後のことでした。そこになぜかミーティング会場があったこと、ミーティングの用意や後片付けを誰かがしていたこと、どこかがミーティングの案内やいろいろな書籍やパンフレットを作っていたこと、地区の集まりや地域の集まりがあったこと、AAとは一体なんなのか??? やっと頭の中に疑問が湧き上がってきました。少しずつ正気に戻り始めてきたのかもしれませんが。グループの代議員、地区委員会へ参加、地区のイベントのお手伝い、地域委員会への参加という一連の動きの中で、なんとなく「AAの愛の手」の意味がおぼろげに見えてきたように憶えています。ちょうどその頃にAA20周年記念集会在大宮で開催されました。日本中にたくさんのAAメンバーがいることを確認したこの大会で常任理事会が構成されました。後日、この常任理事会の書記の役割をさせてもらうことになり、それより少し前にスポンサーをお願いした仲間に参加していただきながら、常任理事たちのお手伝いをする事になりました。ここでサービスについて、様々な勉強をさせていただいたことが、いまだに役に立っています。貴重な経験に

感謝しています。

JSOのボランティアを始めたのもこの頃でした。二人体制のスタッフがでてこ舞いの中、少しでもお手伝いのできればと思ひていました。この二人体制が山本所長の健康を損ねたのではないのでしょうか、自宅療養が必要になってしまいました。おりしも、事務所契約の更改や書籍保管場所の確保など様々な問題が起きてきて、できたばかりの常任理事会は大変な問題に直面することになりました。このような背景の中で新しいスタッフの雇用問題が出てきたわけです。退院後、元の仕事(友禅染の着物を作っていた)に戻っていた私は、個人事業で仕事の都合などは比較的自由的な環境でした。常任理事からのスタッフ就任への要請があり、家族と相談しました。これまでオフィスワークの経験はなし、定時の出勤も修行時代以来のこと、給与もあまり良くない?・・・どうしよう。49歳の転職は結構きついものと想像はできました。AA日本ニューズレター72号に所長就任時の挨拶文が掲載されていますが、その時と同じ思いを今でも持っています。とにかく与えられた命が何か役に立つのであれば、できるだけのことはやってみようと思ひました。以来私に何ができたのか、できなかったのか(多分ほとんど何もできなかったのだろう)・・・自分では分かりません。なんとか大きな迷惑をかけることなく?次の人に引き継ぐことはできそうです。

ビッグブック7章の冒頭「実際の経験によれば、他のアルコールと徹底的にかかわっていくことほど、再飲酒を防ぐ保証になる行動はない。ほかのことがみんなうまくいかなくても、これには効果がある。」と記されています。しかし雇用されたスタッフは個人として「12番目のステップ活動」をしないとも伝統に記されているわけで、JSOでの仕事はあくまでもメンバーの「12ステップ活動」の手助けなのです。その実行にはかなりAAの勉強をしなければなりません。それが私の飲まない生き方に役に立ったことは紛れもない事実だと思ひます。本当に恵まれた場所で仕事をする事ができたことに感謝し、喜びを皆さまにお伝えしたいと思ひます。所長という役割は終えましたが、もう少しの間皆さまのお手伝いをさせていただけるようです。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

JSO 野崎

第14回 AA 全国評議会に出席して

先ずは、自己紹介をさせていただきます。ニックネームは「阿無」と言い、中央地区の「びのきお Group」に属しています。評議会では「議事委員会」を担当しています。

私がAAにつながったのは1995年11月です。それまで精神病院だけで4回の入院をしています。

最初の1回を除きAAのメッセージが入っており、病院もAAに対し理解のある病院でした。しかし残念ながら自分は入院の度色々なものを失っても尚全く病気を認めない人間でした。

そんな私がやはり最後に助けを求めて行ったのは「AA」と「中間施設」でした。

私とサービスの関わりは1999年8月に現在所属する「ぴのきお Group」を仲間と3人で立ち上げ暫く経ってからです。

当初は人数も少なく代議員もやれる人がいなく「連絡員」という形をとっていましたが、どうも地区内での孤立感（今思えば地区内でのフェローシップ（交流一地区委員会）に参加せず一体性の輪に入らなかったのが原因でしょう）があり、私が代議員になったのが、始まりです。

又、病院にメッセージに行った時、一人の患者さんが「私は退院して家に帰っても、近くにAAのミーティング会場がありません、どうすれば良いでしょう」と言われた時、メッセージを支えるサービスの大切さを知りました。

前回評議員として右も左も判らず評議会に参加させてあっという間に三日間が過ぎましたがその中で頂いたものがあります。

それは関東甲信越が2008年1月の地域集会で、14回の評議会テーマを議案として決定し評議会に持って行った時の事です、当然締切（2007年9月）が過ぎていたので翌年のテーマとして考えてもいました。一応地域集会の意思として「議事委員会」の中で議題として出して良いかを計った段階である評議員が「グループの良心の集約である地域集会の重みを大切にしよう」と言った趣旨の発言をされました。その結果かどうかは判りませんが議題として取上げて頂きました。

その言葉は我々が「逆三角形」と言われているサービス体系全体の中で何処に属しているかを常に念頭に置く必要性を感じさせてくれました。

前置きが長くなりましたが今回の評議会での感想です。

「不謹慎」と言われるかも知れませんが、私個人としては前回はそうでしたが今回はより楽しめました。評議会に先立ち議題が10月～11月にかけて送付されます。それを見ていつも思うのは「地域集会」等の「グループの良心」による提案の議題の少なさです。

13回は46議題の内、16議題（但し、内3議題は訳文に関するもので、これは当面議題としてプールすると言う事になっており議題として討議はされなかったと思います）、14回は31議題のうち8議題です。他はほとんどが理事からの提案です（一部評議員及び評議員連名と言うものもありますが13回で5議題、14回では1議題です）。

「グループの良心に基づく議題が少ない」と思うのは私の感覚かも知れませんがゼネラルサービス体系を考えた時疑問に思うのは私だけでしょうか。

国会に例えるなら「官僚主導型」と言えなくも無いと思います。

AAは無名のメンバーがグループを通して直接議題を提案し、その総意でAAの方向づけが決まって行く、

「メンバー主導型」の方が望ましい形と思うのは間違いでしょうか。

しかし一方でメンバーが議題を提案する環境に無いことも一因としてあります。

私の所属する関東甲信越においては各サービスレベルで色々な問題(?)があります。

グループレベルにおいては「ビジネスミーティング」が開かれているグループが多いですが、殆どが月1回、1～2時間です。その中で報告とかグループの活動等の話し合いを行うとそれだけで殆どの時間が費やされ中々ゼネラルサービスに係る問題を話し合う時間はありません。

又地域集会も年三回開催されますが評議員等の選出集会と地域委員会の活動報告、活動計画の承認等でその時間のほとんどが費やされます。

更に集会においては、事前に議題を募集するシステムが無く、当日提案以外に方法はありません。

議題を提案しても集会で検討する時間すら無い無いわけで、提案する事すら無駄に思えます。

この様な状況の中で常に問題を投げかけ、又、議題を（グループから地域レベルまで）提案しやすく、それを受け入れる日本なりの仕組みを我々も含め皆で考えていく必要があると思います。

最後に個別の議題で熱い討論があった議題について所感を述べさせてもらいます。

一つは「議題1」の「評議会の分科会における分科会の廃止」です。

提案者は「〇〇常任理事」です。

これは速報で否決と成っていますが私の記憶では提案者が「議題提案を取り下げた」と思っています。議題事態は13回に提出され継続となったものですが13回の議題では「縮小ないし」と言う文言が入っていました。

事前の評議員のみで行われた「評議員会」の中でも賛否両論あったと思います。

私が印象的だったのはその議論を聞いて（速報では「否決」となっていました私の記憶では）、提案者が取り下げた事です（と思います）。

何故取り下げたかはご本人のみにしか判りませんが、私は議論の中でもっとグループ、地区、地域の中で十分に議論し良心の結果として提案した方が良いと感じました。きっと常任理事の方もその様に思ったのだと私は感じました。

私としては今後どこかの地域で充分議論した結果として提案が出れば良いと思いました。

二番目は「議題18」の「AAを冠するイベントに関するガイドの作成」です。

提案者は「関東甲信越（2008年度）評議員8名」で、私達が主体となって取り纏めたものです。

分科会での議論の詳細は判りませんが速報の議事録を読んだ感じでは議論の的が全く違った方向で議論された感じがしています。

提案者の一人として説明させて頂くと提案の趣旨夜の評議会でも話したように、

- ① 伝統7に基づき献金以外での運営を行う場合
- ② サービス体系より何らかの形でグループの良心が反映されていないイベント
- ③ 無名性の原理—個人より原理を優先させる—
- ④ 上記3点を満たさないイベントはAAを冠することを控えると

以上のAAの原理そのものの三点をガイドラインとして明示してもらおうという趣旨でした。

この原理を規制と言うメンバーは誰もいないでしょう。が、議論がグループの定義とAA内の規制等の問題に変わってしまったようです。

又、ガイドラインと言うものに誤解があるようです。AAでは各種のガイドラインが示されていますが拘束力のあるものは無いと認識しています。一つの指針(道標)と言った方が良いでしょう

(良く知られているものとしCO/IGOガイドラインや英国のセクハラ暴力に関する物があります)

又、「AA成年に達する記載事項」を例にとり反対をされていますがこれも、提案とは的外れな部分を引用されているようです。

唯今回は「報告」と言うことで良いと思えました。最初に書いた「議題1」と同様広く議論して頂き、良心の結集と言う形で議題が提案されれば良いと思っています。勿論提案した評議員の一人として説明を求められれば事情が許す限り何処へでも行きたいと思っています。

残された任期も一年を切りましたがこの経験を生かし評議員の任期が終了後も「グループの良心の僕」を忘れずに活動を行いたいと思っています。

何処かで見かけましたら気軽に声を掛けて下さい。

関東甲信越後期評議員
増田

評議会に参加して

私には、関係ない世界だと思っていたのですが、AAに繋がりグループ、地区、地域とサービスに携わってきました。先行く仲間や病院関係者の人から言われた言葉は、みんなが望んでいる時がやる時だよと言われ、勇気を貰いました。いざ評議員代理という役を私にこなせるのか不安です。評議会提案議題を見た時は、議題の多さに驚いたのと時間は、大丈夫だろうかという思いが出てきました。

初めて評議会に参加するにあたって議題と提案理由などを読んでるうちに、自分の考えは、グループ？は、地区？は、地域？は、などといろいろ考え、それ

でも自分が地域そしてグループから選ばれて出てきているのだと考えさせられた日々でした。評議会に不安と緊張の中、会場に着き昼からの全体会議から参加しました。全体会議の説明の後、評議会構成メンバーと傍聴者の自己紹介がありました。夜も全体会議がありましたが、評議員のクロードで中に入れたい事を聞いた時、代理は話が聞けないのか、参加できないのかと不愉快な気持ちになりました。

二日目の分科会では、企画委員会を聞いてみる事にしました。一時間したら他の分科会も回って聞いてみようかと思っていたのですが、提案議題の分科会の廃止の提案とサービスガイドの改正もどうなるのかと気になっていたのも、つい企画委員会が終わるまで聞いてしまいました。分科会や全体会議でも理事の方や評議員の方の真剣な討議に感心するばかりで自分に出来るのかと不安になったのですが、もっとサービスを学んで行こうと自分に言い聞かせた時でした。

三日間の評議会を見て、聞いた事を自分の経験として来年の評議会に活かして行きたいと思うし、経験を話し伝えて行けたらと思います。本当に忙しい三日間でした。

そして議事の書記をした方々のご苦労には頭が下がります。分科会が終わり、全体会議には分科会の議事録が出来ていたのが驚きました。本当に感謝ですね。来年からは、評議員として参加するのですが、代理の人も評議員と同じホテルで泊り食事ができたら、もっと気持ちが楽に過ごせる気がします。私も食事を何処に行けばよいのか分からず、時間も少ししかなくコンビニでパンを食べて、すぐホテルに戻り会議に出席をするというそんな忙しい日でした。みんなと食事ができたら顔も覚えるし意見の交換も出来たのではないかと思います。評議員代理の認識の違いでしょうか。

それから全体会議での採決の時に会場閉鎖はわかります。採決の人数確認と採決の挙手は、人数確認なのか採決なのか、分からなくなった事もありました。もっとシンプルにできないものかと思うし、議題を一つでも多く採決出来るのではないのでしょうか。提案議題の分科会での重複した討議があったように思いました。広報の「アーカイブ整備についての方針」と企画担当2009年度事業計画は同じだったような気がしていたのですが、議題の重複がないのか確認を取ってほしいです。

評議会の三日間で大きな経験をさせて貰いました。来年の評議会を活かして行けたらよいのですが、まだ経験の少ない私に出来るかどうか心配です。出来る事から一つ一つやって行きたいと思っています。

九州沖縄地域 伊集院

編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> aa-jso@cam.hi-ho.ne.jp

(月—金) 10:00-18:00 (土・日・祝) 休